

宇都宮市立横川中学校第3学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

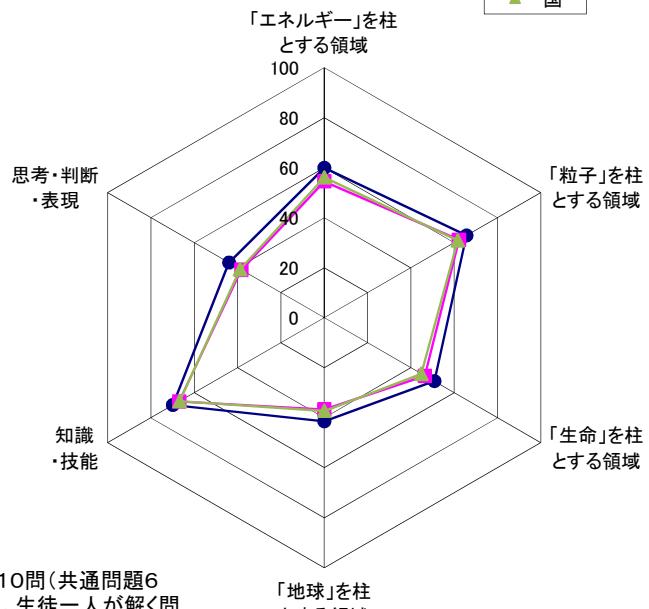
分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	59.9	54.5	56.1
	「粒子」を柱とする領域	65.7	62.2	61.7
	「生命」を柱とする領域	50.8	46.5	44.8
	「地球」を柱とする領域	41.4	36.7	37.3
観点	知識・技能	70.0	67.0	66.8
	思考・判断・表現	44.0	38.3	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			

※中学理科の調査は、CBTで実施されている。

※CBTの調査では、生徒全員に同じ問題が出題されるのではなく、公開問題10問(共通問題6問、実施日により指定された問題4問)と、非公開問題が16問出題されている。生徒一人が解く問題数は26問である。

※公開問題22問(共通問題6問、実施日により異なる問題16問)の調査結果を集計した値である。

★指導の工夫と改善



○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○市の平均を5.4ポイント、国の平均を3.8ポイント上回った。</p> <p>○「抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する問題の正答率は86.1%と高かった。</p> <p>●【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する問題の正答率は22.8%と低かった。</p>	<p>・今後も日常生活で目にする事象や現象について授業で扱い、教科書で学習した事柄と連携させて考察する機会を設けたい。</p> <p>・課題に対して自分たちで仮説を立て、実験を計画し、考察、まとめまで行う探究的な学習機会を増やしていくたい。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○市の平均を3.5ポイント、国の平均を4.0ポイント上回った。</p> <p>○加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する問題の正答率は93.7%と大変高かった。</p> <p>●化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表す問題の正答率は44.5%と、この領域の問題において一番低かった。</p>	<p>・実験の際の安全確認や何かあったときの対応の指導を今後も適切に行っていきたい。</p> <p>・粒子の分野で扱う項目は目に見えない現象も多いので、モデルやICTを適切に活用し、内容理解につなげていきたい。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○市の平均を4.3ポイント、国の平均を6.0ポイント上回った。</p> <p>○牧野富太郎の「ノジギク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する問題の正答率は69.0%で、この領域で最も高かった。</p> <p>●生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う動物を全て選択する問題の正答率は38.6%と低かった。</p>	<p>・スケッチを伴う実験を行う際、引き続きポイントを押さえて指導していきたい。実際に生徒が体験したものについての定着度が高いと思われる所以、生徒が体験できる機会を多く設けたい。</p> <p>・日常生活で目にする事象や現象について授業で扱い、教科書で学習した事柄と連携させて考察する機会を設けたい。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○市の平均を4.7ポイント、国の平均を4.1ポイント上回った。</p> <p>○クリーンルームのほかに気圧を利用して身近な事象を選択する問題の正答率は63.3%で、この領域で最も高かった。</p> <p>●Aさんの考え方を肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す問題の正答率は21.2%と低かった。</p>	<p>・日常生活で目にする事象や現象について授業で扱い、教科書で学習した事柄と連携させて考察する機会を設けたい。</p> <p>・実験や課題に取り組む際、自分たちで仮説を立て、実験を行うなど、筋道をたてて考察できるような学習機会を増やしていくたい。</p>